

講演するパトリック・ブラン (Patrick Blanc) 氏

壁面緑化の巨匠 パトリック・ブラン氏

壁面緑化の魅力を講演

壁面緑化の巨匠として知られるパトリック・ブラン氏が9月17日19時より、Bunkamura(東京都渋谷区)で講演を行った。この講演会は、12月23日〜3月1日まで開かれる「キャプテン・クック探検航海と『バンクスタ花譜集』展」の開催記念イベントとして開催されたもの。

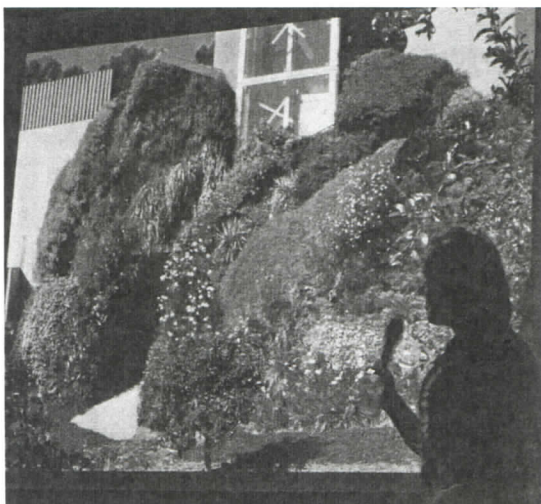
パトリック・ブラン氏は1953年、フランスで生まれた。植物学者であり、また「垂直の庭」の作者として、世界中で200以上の作品を手がけている。

熱帯雨林をフィールドに、岩肌に見える植物の研究をしてきたブラン氏。複雑な状況に生きる多様な植物に感銘を受け、都市の垂直面に目を向けて金属製のフレームを防水層とし、耐腐蝕性と保水性のあるフェルト層を組み合わせた新しい

植栽基盤を発明したことで、都市の自然に新たな局面が開かれた。今までは荷重や光環境など、多くの制約のためにあきらめられてきた場所に、垂直の緑空間を創造するという独創性から、世界的な建築家との協働も多い。日本でも多くの作品がつくられ、中でも金沢21世紀美術館の垂直庭園は有名である。

講演は、神戸大学大学院の福岡孝則特命准教授の通訳で進められた。ブラン氏は、キャプテン・クックや同行画家バンクスが出会ったオーストラリアを中心とした太平洋地域の植物を紹介するとともに、自ら制作した巨大な壁面緑化を屋内・屋外含め解説。そして、高さ十数メートルもあるビルの壁面や、世界の有名な空港ロビーでの屋内緑化の作品、さらに、これからの屋内緑化の可能性などを提案した。

(山川)



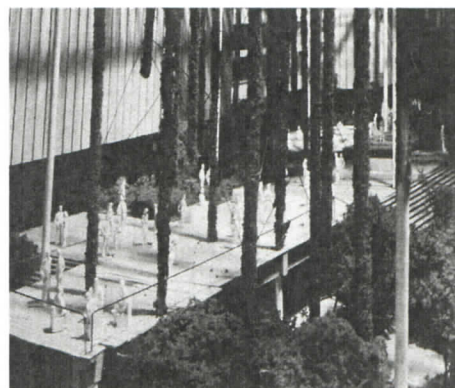
豊富な画像をスクリーンに写しながら進行



デザイン性に優れたビルの壁面緑化



都市のオアシスとも呼べる壁面緑化



新たな緑化デザインも提案